

ブラジル情勢と 日本・ブラジル関係



[Instagram@jairmessiasbolsonaro](https://www.instagram.com/jairmessiasbolsonaro)

2019年7月
在ブラジル日本国大使館

ブラジル概況

人口: 2億9百万人(2018年)
世界第5位(活力に富む多民族国家)

面積: 851.2万km²
世界第5位(米国・中国の9割)

GDP: 1.9兆ドル(2018年, 世銀)
世界第9位

世界の熱帯雨林の3分の1
潜在的耕地面積: 2億ha

BRICSの中でも最有望国
幅広くバランスよく持つ国

平和的な民主主義国
30年近い民主主義を経て, 市民社会も成熟化

日本のDNAを持つ親日国
日系人200万人, 大型協力案件の歴史

食糧・資源・エネルギー, 工業力
大きく広がるビジネス・チャンス



農業大国(世界有数の輸出国)

◆ **輸出額が世界第1位の品目(2018年)**
大豆, 砂糖, コーヒー, オレンジジュース, 鶏肉, タバコ

◆ **生産量が世界上位の主要品目(2018年)**
1位: 砂糖, コーヒー, オレンジジュース
2位: 大豆, 牛肉, 鶏肉
3位: トウモロコシ, タバコ (出典) 伯農務省, 国連商品貿易統計

鉱物・エネルギー資源大国

- ◆ 鉄鉱石(生産量第2位)(2018年)
- ◆ ボーキサイト(生産量第4位), マンガン(同第5位)(2018年)
- ◆ レアメタル(ニオブ)(埋蔵・生産量第1位)(2018年)
- ◆ グラファイト(生産量第2位)(2018年)
- ◆ ウラン(確認可採埋蔵量第8位)(2017年)
- ◆ エタノール(生産量第2位)(2018年)
- ◆ 石油(確認可採埋蔵量第16位, 生産量第10位)(2017年)

**工業でも
成長分野あり**

- **自動車** → 生産台数は2018年に289万台(ピーク時の2013年は, 生産台数374万台で世界4位)
- **航空機** → エンブラエル社は小型ジェット機(100席未満)のシェア世界第1位(2017年)

2018年大統領選挙の結果

1. 選挙概要

- 史上二番目に多い計13人の候補が出馬(以下, 第一回投票の得票順)。
- 服役中(第二審で12年1か月の有罪判決)のルーラ元大統領は国内法規定のため出馬できず。



①ボルソナーロ下院議員
SP州、PSL(右派)



②アダッジ候補
SP州、PT(左派)



③ゴメス元財相
SP州、PDT(中道左派)



④アルキミン元SP知事
SP州、PSDB(中道左派)



⑤アモエド候補
RJ州、NOVO



⑥ダシオロ下院議員
SC州、Patriota



⑦メイレス元財相
GO州、MDB(中道右派)



⑧シルヴァ元環境相
アクレ州、REDE(左派)



⑨ディアス上院議員
SP州、PODE



⑩ポウロスMTST代表
SP州、PSOL(左派)



⑪ヴェラ候補



⑫エイマエル候補
RGS州、DC



⑬グラール候補
RJ州、PPL

2. 選挙結果

- 第一回投票(10月7日)では, いずれの候補も過半数に満たず(ボルソナーロ:46.66%, アダッジ:28.43%)。
- 決選投票(10月28日)では, ボルソナーロ:55.13%, アダッジ:44.87%(選挙高等裁判所発表)。
- 伝統的な選挙予想・分析は, ことごとく外れる結果に。

【ボルソナーロ候補当選の要因】

- ★国民の政治不信(汚職スキャンダル, 治安の悪化, 不景気)の受け皿に。
- ★PT政権(2003年~2016年8月)の経済失政に対する批判(PT嫌い)。
- ★汚職対策と治安対策を前面に掲げたボルソナーロへの期待感。ボルソナーロ旋風へ。
- ★SNSを主体とする選挙戦術の成功(ブラジル国民のSNS利用率は世界屈指。政見放送の影響力低下)。
- ★選挙戦中の9月に刃物で刺され入院。同情論が強まり, メディア露出は増加。対立候補の批判も停滞。



ボルソナーロ大統領について

■氏名: ジャイル・メシアス・ボルソナーロ (Sr. Jair Messias Bolsonaro)

■生年月日: 1955年3月21日(64歳)

■出身地: サンパウロ州カンピーナス市

■学歴: 陸軍士官学校卒(1977年)

■経歴: 1979年～1988年 陸軍軍人(最高位は大尉: capitão)

1989年～1991年 リオデジャネイロ市議会議員

1991年～2018年 連邦下院議員(PSL: 自由社会党)

2019年1月～ ブラジル連邦共和国大統領

■横顔:

●選挙中、「極右」のレッテルを貼られたが、実像は「急進的な右派」。

●スローガンの“*Brasil acima de tudo, Deus acima de todos*”は、

「何よりもブラジルのために、神のために」と国家への貢献と忠誠を誓う意味。

●前妻2人との間に4男(うち3人が議員)、ミシェリ現夫人(37歳)との間に1女(7歳)。

●長い議員生活にもかかわらず、不正疑惑は特に浮上せず。クリーンな一面も。

●昨年9月の刺傷は重傷で、その後、本年1月までに3度の手術を受けた。

■対日関係:

●サンパウロ州で育ち、日系社会とも近く、大の親日家。

●選挙中の2018年2月に訪日。浜松市と大泉町のブラジル人社会は大歓迎。

(日本での在外投票は、第1回投票で8割、決選投票で9割の得票)

●山田大使との懇談時に、「日本が大好き。日本の友人だと思って欲しい」と発言。

●1月の大統領就任後、既に2度の日伯首脳会談を実施(1月:ダボス, 6月:大阪)。



2019年6月, 大阪市内を散策



大統領に日本酒を贈呈

ボルソナーロ政権発足から半年

【ボルソナーロ政権の特徴】

- 大統領は人物本位で閣僚を任命。全24ポスト(正副大統領を含む)のうち、8ポストを軍出身者が占める。
- 閣僚は、①右派思想派、②軍部出身派、③テクノクラート派に分かれ、特に③が一定の成果を挙げている。
- 一方、議会对応の問題や大統領子息による閣僚批判等が政権運営に影を落としてきた面あり。
- 国民の高い期待と支持を受けて発足したが、この半年間で、その勢いを十分に生かせなかった面あり。

政権・与党内の主要人物

①右派思想派(通称オラヴィスタ ※右派思想家オラーヴォ・デ・カルヴァーリョを支持)



エルネスト・アラウージョ
外務大臣(52)

- ・前職は、外務省米・加・米州担当局長(大使級)
- ・反グローバリズム



エドゥアルド・ボルソナーロ
下院外交・国防委員長(35)

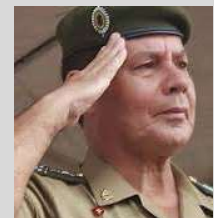
- ・ボルソナーロ大統領三男
- ・2018年下院選挙では史上最多得票で当選(駐米大使任命との報道あり)



アブラハン・ヴァイントラウブ
教育大臣(47)

- ・4月、ロドリゲス前大臣の更迭を受けて就任
- ・前職は文官庁次官

②軍部出身派(左右の思想にこだわらず、実利主義)



アントニオ・モウラオン
副大統領(65)

- ・元陸軍大将
- ・ベネズエラ対応で存在感
- ・5月に訪中



アウグスト・エレーノ
安全保障局長官(71)

- ・大統領の陸軍士官学校時代の教官
- ・元陸軍大将
- ・ハイチPKOミッション初代指揮官



ルイス・エドゥアルド・ラモス
政府調整庁長官(63)

- ・6月、サントス・クルース前長官の更迭を受けて就任
- ・元陸軍大将
- ・元国連ハイチPKOミッション指揮官

③テクノクラート派(高い専門性をもち、成果重視)



パウロ・ゲデス
経済大臣(69)

- ・自由主義(シカゴ学派)
- ・財務、企画、産業貿易を所掌するスーパー大臣



セルジオ・モーロ
法務・治安大臣(46)

- ・スーパー大臣の一人
- ・前職はラヴァジャット捜査担当判事で国民の人気も高い
- ・判事時代の越権行為を野党が糾弾



テレザ・クリスティーナ
農務大臣(64)

- ・前農業議連会長
- ・新政権の積極的な農業開発を推進

ボルソナー口政権発足から半年【主な成果】

<内政>

■年金制度改革の進展:

7月、受給開始年齢の導入等を柱とする憲法改正案を下院が一度目の採決。議会休会が開ける8月初旬に、下院で二度目の採決を経て、上院審議が開始される見込み。

■税制改革の進展:

議員立法案が下院委員会で審議中。税制改革は、年金制度改革の成立後に、議会で本格審議される見込みのため、現在、政府は議会に提出すべき法案を検討中。

■治安・汚職対策:

2月19日、モーロ法務・治安大臣は、治安改善と汚職撲滅を兼ねる総合的な犯罪対策法を議会に早期提出。連邦議会は、年金制度改革の集中審議を行っている下院を避け、上院から先に審議することとし、7月初旬に上院での審議プロセスが開始。

■民営化の推進・インフラ等入札の実施:

インフラ省の主導により、空港、鉄道等における民営化に係る入札を実施(3月15日、民間航空庁(ANAC)が国内12空港の30年間にわたる運営権の入札を実施。3月28日、インフラ省が南北鉄道に係る運営権の入札を実施等)。

<外交>

■自由貿易の推進:自由主義路線を推進し、保護主義に反対。6月にはEUメルコスールFTA交渉が実質合意

■OECD加盟の進展:3月のボルソナー口大統領訪米時に、トランプ大統領から支持獲得

■ベネズエラ対応:グアイド暫定大統領を承認。親米ながら、リマグループの議論をリードし、ベネズエラへの軍事介入を否定

■環境政策:懸念されていたパリ協定脱退の公約を見直し、残留を決定

■中東関係:エルサレムへの大使館移転の公約も修正し、アラブ諸国との関係も修復中

■その他:G20大阪サミットへの出席を始め、多くの外遊を通じて、対外関係の構築に積極的に取り組む

★ボルソナー口大統領の外遊歴

1月22日～25日、スイス(ダボス会議)

3月17日～20日、米国

3月21日～23日、チリ

3月30日～4月2日、イスラエル

5月15日～16日、米国(ダラス)

6月6日～7日、アルゼンチン

6月27日～29日、日本(G20大阪サミット)

7月17日、アルゼンチン(サンタフェ)(メルコスール首脳会合)

※大阪では、日本を含む計8件の首脳会談と、BRICS非公式首脳会談を実施。

ボルソナーロ政権発足から半年【主な課題】

<内政>

■議会関係:

従来の利益調整型政治を排する一方、議会对応の問題もあり、与党側の中道右派政党グループ(セントラン)が、政府に一時反発。ただし現在は歩み寄り、議会関係は徐々に改善

■政権内の緊張関係:

大統領次男カルロス・ボルソナーロ・リオ市議が軍部出身閣僚への批判を繰り返す等して、軋轢の基に。昨年選挙時の与党PSLの不正問題(テイシェイラ観光大臣, サレス環境大臣も関与)が火種として残っている状況。

■経済成長率の減速:

政権発足時の期待に比して、成長率は減速傾向(2019年中銀予測値:0.8%)。1,300万人を超える失業問題も抱えている。

■教育政策, 環境政策への批判:

政権の教育政策, 環境政策, 科学技術政策に関して、各省の歴代大臣が連名で批判する書簡を発出。教育省では、ロドリゲス前教育大臣が同省高官を多数更迭し、混乱状態になったことも一因(4月に同大臣が更迭された)。環境分野に関しては、独や仏などから懸念が表明されており、今後、アマゾン開発を加速化する方針が打ち出されれば、更に非難が強まる可能性。

■予算不足問題:

財政規律を重視する一方、政策実施のための予算が不足。大学教育予算のカットを発表し、全国デモが発生。

■低調な政権支持率:

国民の高い期待を受けて発足したが、発足半年後の支持率としては低調(4月:35%→6月:32%(IBOPE社世論調査))。

<外交>

■発足当初、メルコスール関係の見直し、パリ協定や人権理事会からの脱退等の公約を掲げていたが、現在は修正し、現実的に。

■環境政策を巡っては、アマゾン基金の方針や環境政策を巡り、独仏などから懸念を表明されている。

■アラウージョ外相が推進する「右派イデオロギー外交」に対し、外務省重鎮OBから批判あり。

議会制度と政党勢力分布



連邦議会議事堂(1960年完成)

【上院】(写真左側)

- ・議席数: 81
- ・任期: 8年
- ・議長: ダヴィ・アルコルンブレ (DEM)
- ・選挙: 4年ごと1名/2名改選。
各州定数は3名。

【下院】(写真右側)

- ・議席数: 513
- ・任期: 4年
- ・議長: ロドリゴ・マイア (DEM) (2期連続)
- ・選挙: 各州の非拘束名簿式比例代表制。
各州定数は人口比例による。

政党別議席数

《前期議会(2019年1月31日まで)》

政党名(上位10党/全35党)	上院(81)	下院(513)	合計(594)
1. PT(労働者党)	9	61	70
2. MDB(伯民主運動)	18	51	69
3. PSDB(伯社会民主党)	12	49	61
4. PP(進歩党)	5	49	54
5. DEM(民主党)	5	43	48
6. PR(共和党)	4	40	44
7. PSD(社会民主党)	5	38	43
8. PSB(伯社会党)	4	26	30
9. PRB(伯共和党)	2	21	23
10. PDT(民主労働党)	3	19	22
※青: 中道右派(与党)			
※赤: 左派・中道左派(野党)			
計	67	397	464
その他の政党	14	116	130

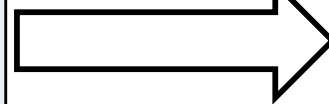
(議席数は2018年10月7日選挙前時点)

《今期議会(2019年2月1日～)》

政党名(上位10党/全33党)	上院(81)	下院(513)	合計(594)
1. PT(労働者党)	6	55	61
2. PSL(自由社会党)	<u>4</u>	<u>54</u>	<u>58</u>
3. MDB(伯民主運動)	13	34	47
4. PP(進歩党)	6	39	45
5. PSD(社会民主党)	9	36	45
6. PL(自由党)(旧PR)	2	38	40
7. PSDB(伯社会民主党)	8	30	38
8. PSB(伯社会党)	3	32	35
9. DEM(民主党)	6	28	34
10. PRB(伯共和党)	1	31	32
※青: 右派・中道右派(与党連合)			
※赤: 左派・中道左派(野党)			
※下線: 大統領の所属政党			
計	58	377	435
その他の政党	23	136	159

(議席数は2019年7月4日時点)

選挙後



- ・PSLが躍進。
- ・上位10党の割合低下
(更なる議席細分化)

最近のブラジル経済情勢

【現状】

- GDPは、世界第9位の経済規模(日本の約4割)。一人当たりGDPは約9千ドル(日本の約25%)
- ブラジル経済は、2年連続のマイナス成長(▲3.5%(15年), ▲3.3%(16年))を記録する深刻な景気後退を経て、2017年・18年は底を打ったが(17年:1.1%, 18年:1.1%), 19年は政権発足時の期待に比して(年初の予測は、2.6%程度)、成長率は減速傾向(中銀予測値:0.8%(19年))。
- 失業率は改善傾向も依然として高止まり(12.5%)。平均所得は約2,250リアル(約67,500円)。
- インフレ率は4.66%(2019年5月までの12か月累計)でインフレ目標(4.25%±1.5%)の範囲内。政策金利は史上最低の年率6.5%を2018年3月以降10会合連続で据え置いている。



- テメル前政権下で、本格的な景気回復と持続可能な成長を目指す政策が実行された。
 - (1) 財政・・・歳出の伸び率の上限を前年のインフレ率とする(=実質伸び率ゼロ)憲法改正が成立。
 - (2) 労働法・・・70年ぶりの労働法改正により、労使間で柔軟な労働条件交渉が可能に。
- ボルソナーロ政権では、年金制度改革、税制改革、国営企業の民営化といった構造改革が引き続き課題。

元投資銀行家でシカゴ大学経済学博士号を取得したゲデス氏が、経済大臣として構造改革を主導する。

 - (1) 財政・・・就任1年目で財政赤字を解消し、2年目から黒字化することを目標に掲げる。
 - (2) 年金制度・・・年金の(必要条件としての)受給開始年齢の導入など。
 - (3) 税制・・・複雑な税制の簡素化・統合化、減税政策の推進。
 - (4) 国営企業の民営化・・・ブラジル電力公社(エトロブラス)等のインフラ企業の民営化促進。
 - (5) 対外経済開放・・・FTA締結や規制緩和により、貿易や海外からの直接投資を拡大。

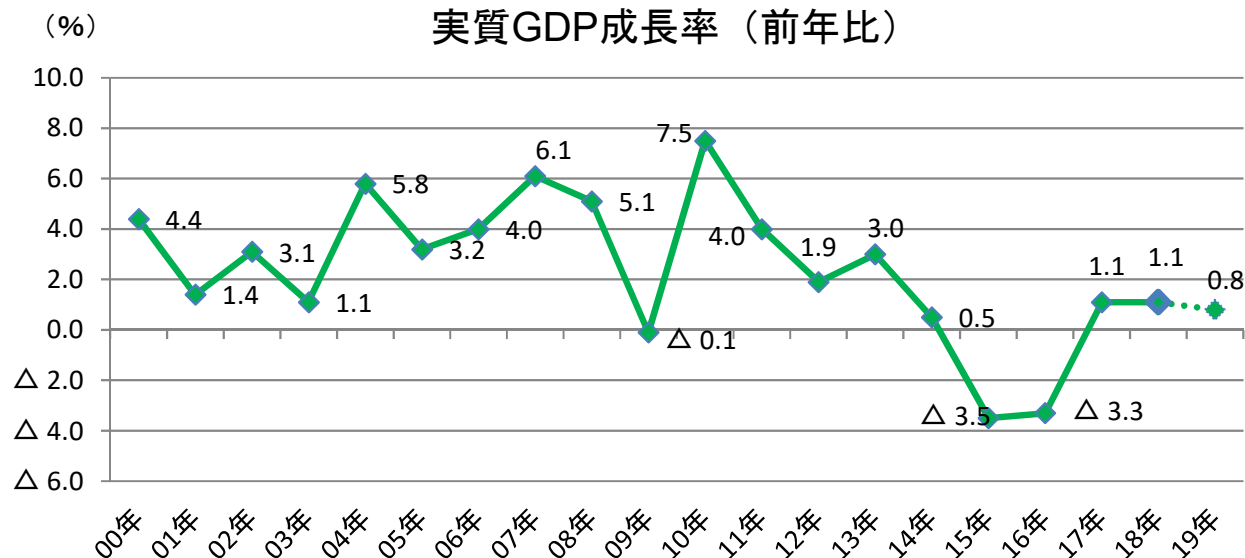
ブラジル経済指標①(基礎指標・GDP)

ブラジル

日本

【人口(2019, UN)】	約211百万人(世界第6位)	約127百万人(世界第11位)
【面積(UN)】	851.8万km ² (世界第5位)	37.8万km ² (世界第61位)
【GDP(2018, IMF)】	1,868,184百万ドル(世界第9位)	4,971,929百万ドル(世界第3位)
【一人あたりGDP(2018, IMF)】	8,968ドル(世界第76位)	39,306ドル(世界第26位)

実質GDP成長率(前年比)



●2年連続のマイナス成長を記録した後、2017年は3年振りのプラス成長を記録。その後の景気回復は緩やか。

2015年: ▲3.5%

2016年: ▲3.3%

2017年: 1.1%

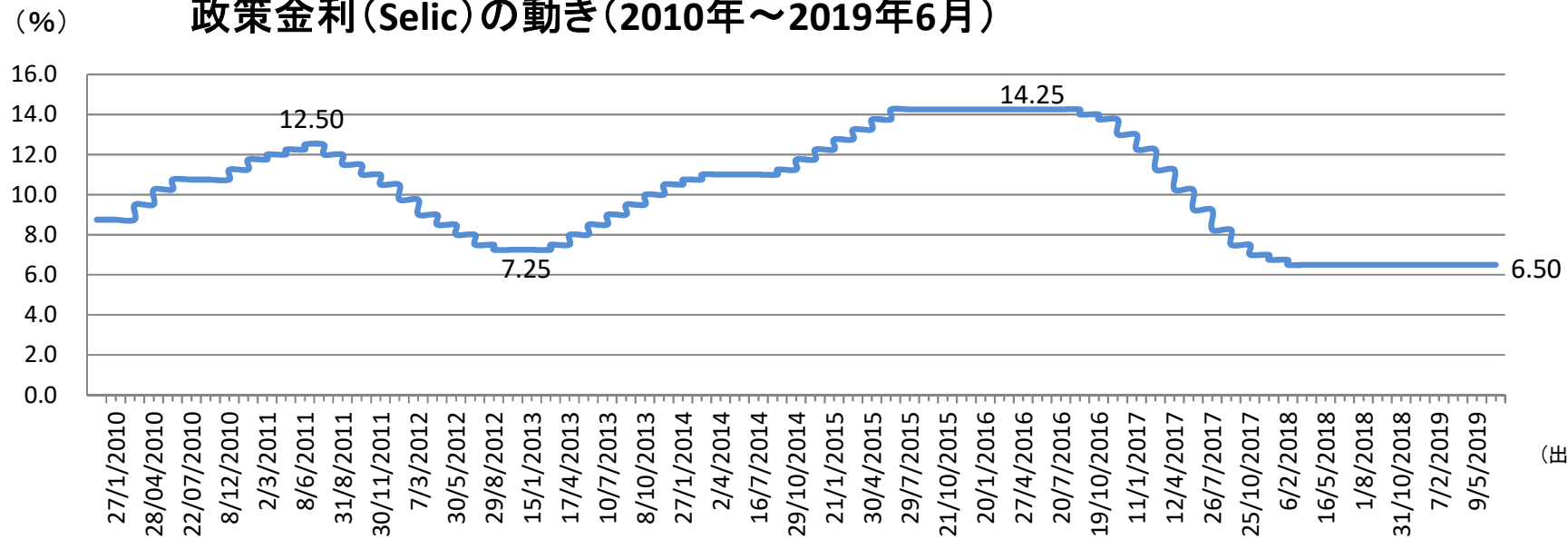
2018年: 1.1%

2019年: 0.8%(中銀予測)

(出典) ブラジル地理統計院、中央銀行

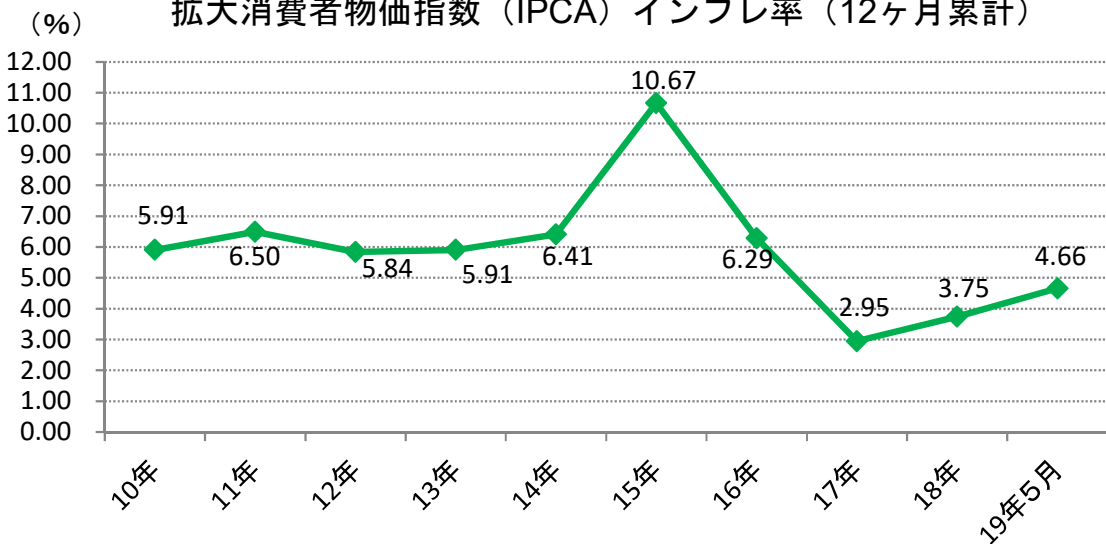
ブラジル経済指標②(政策金利、インフレ率、失業率)

政策金利(Selic)の動き(2010年～2019年6月)



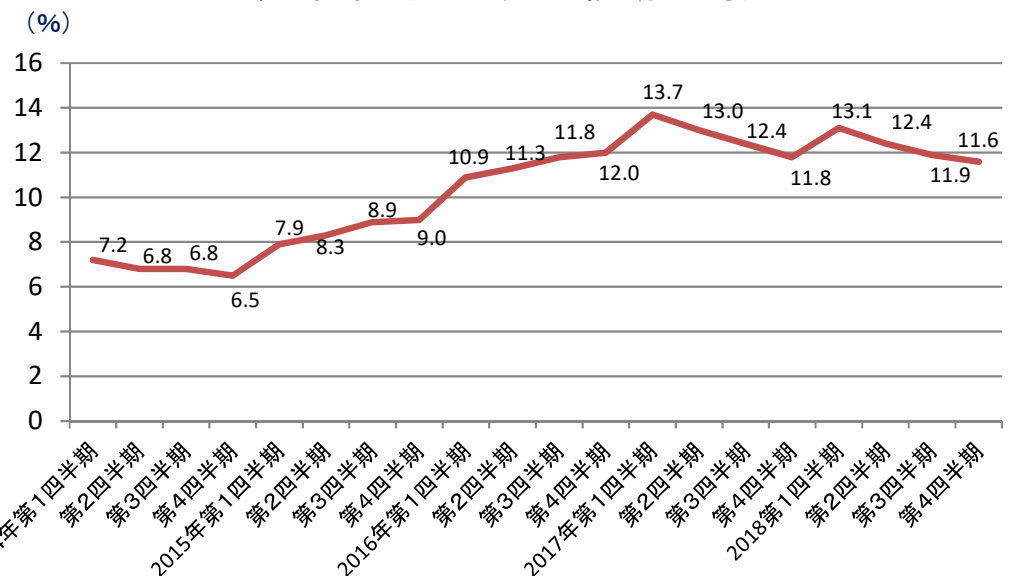
(出典) 伯中央銀行

拡大消費者物価指数 (IPCA) インフレ率 (12ヶ月累計)



(出典) ブラジル地理統計院

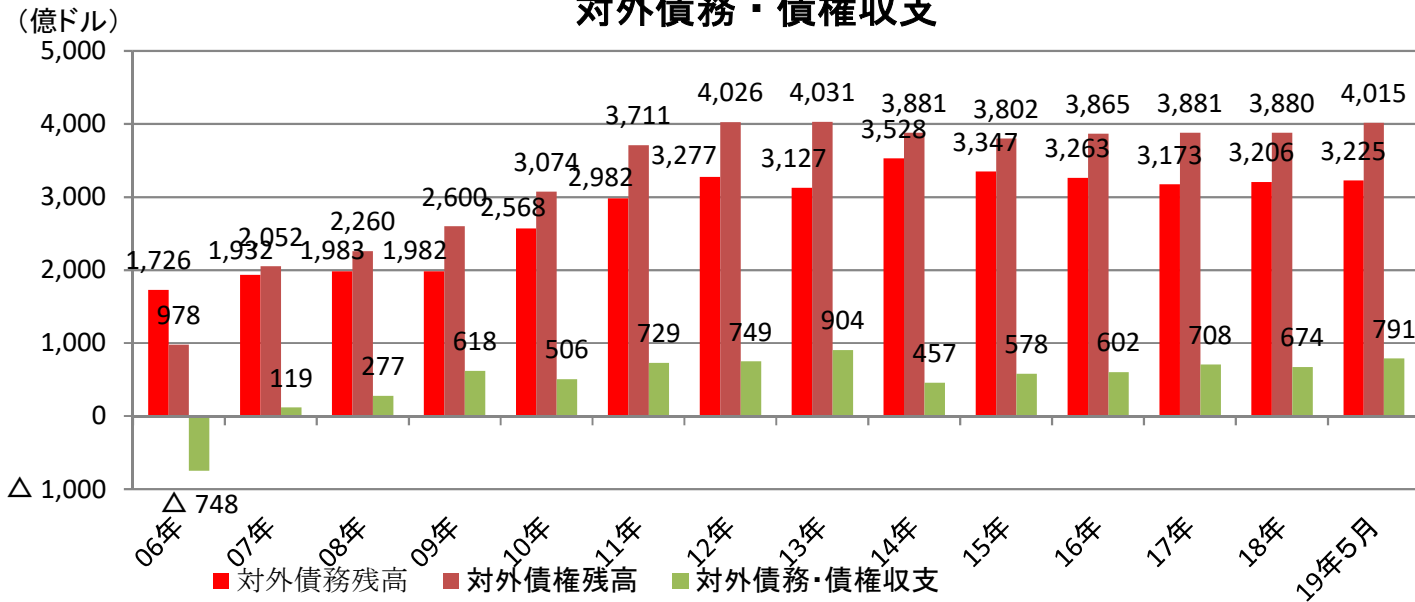
失業率 (3か月の移動平均)



(出典) ブラジル地理統計院

ブラジル経済指標③(対外債務、対伯投資)

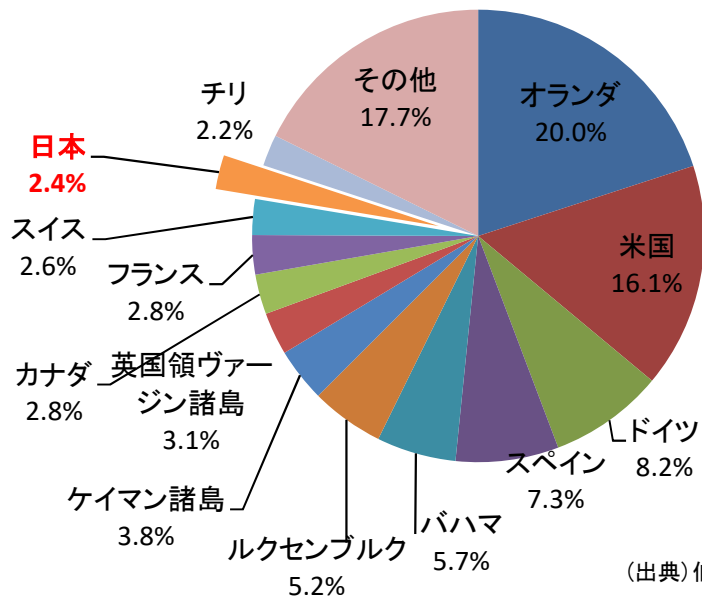
対外債務・債権収支



07年に対外債権(外貨準備高, 対外融資等)が対外債務を上回り, 以後, 純債権国。

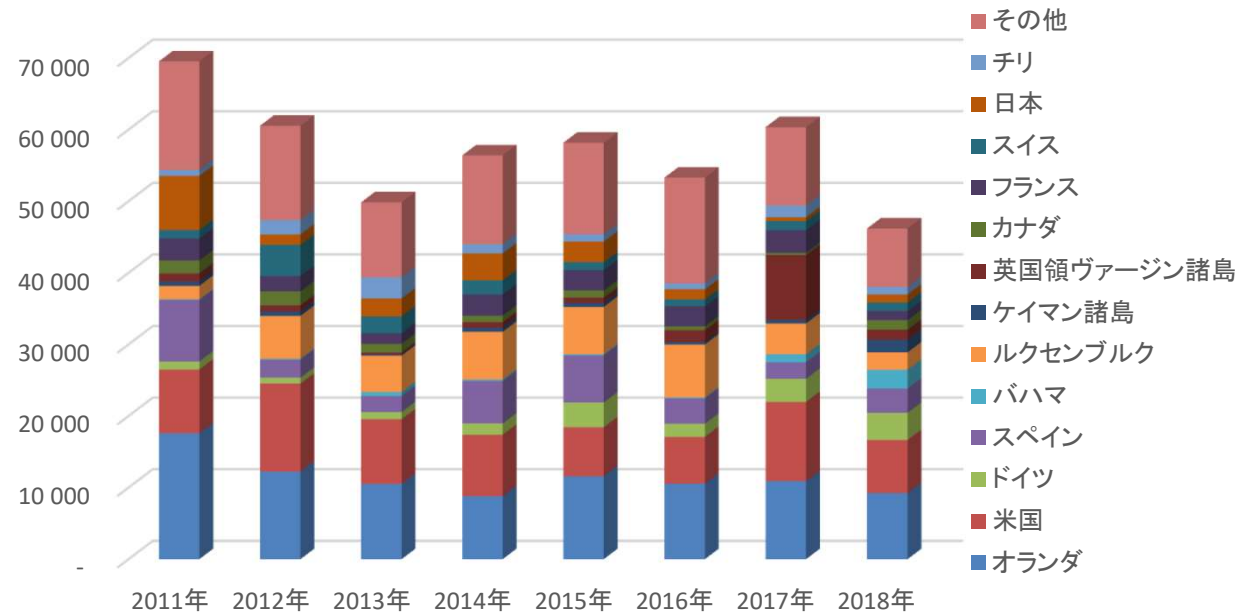
(出典) 伯中央銀行

対ブラジル直接投資 (資本参加分, 2018年, 総額461,87億米ドル)



(出典) 伯中央銀行

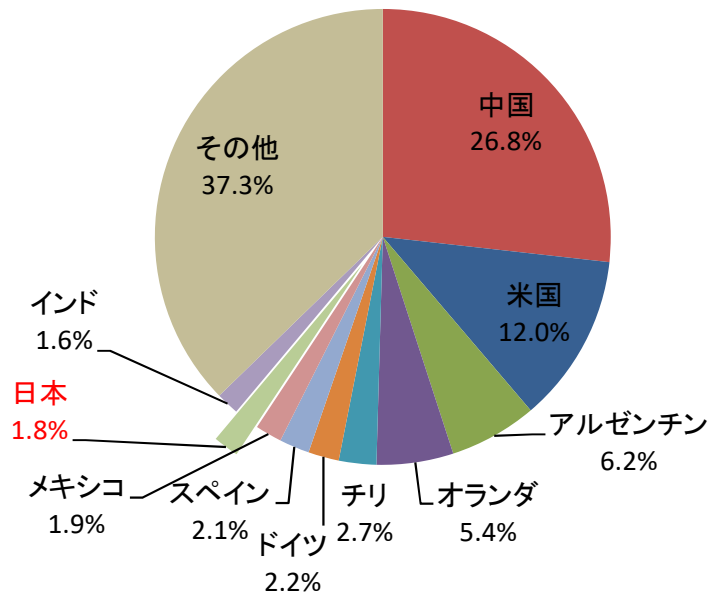
対ブラジル直接投資(資本参加分)



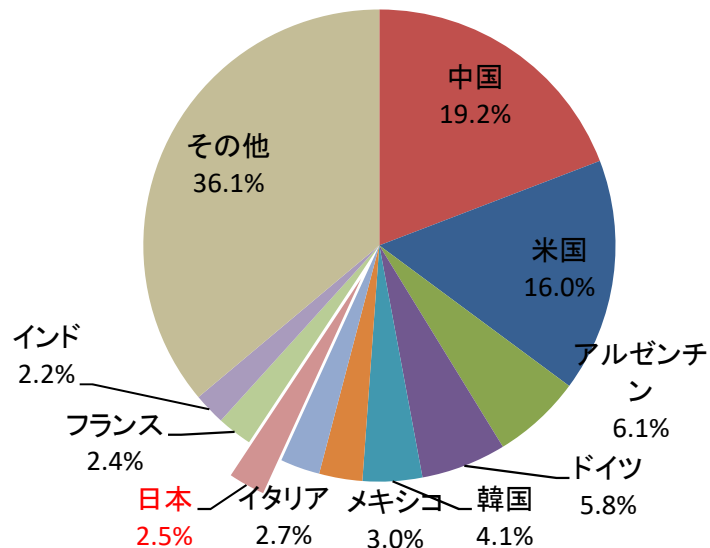
(出典) 伯中央銀行

ブラジル経済指標④(貿易)

ブラジルの輸出相手国(2018年)
(総額2,398.89億米ドル)

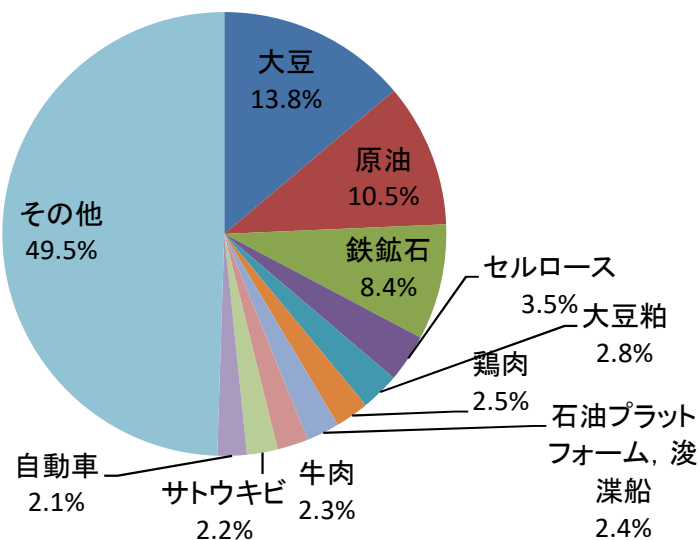


ブラジルの輸入相手国(2018年)
(1,812.31億米ドル)

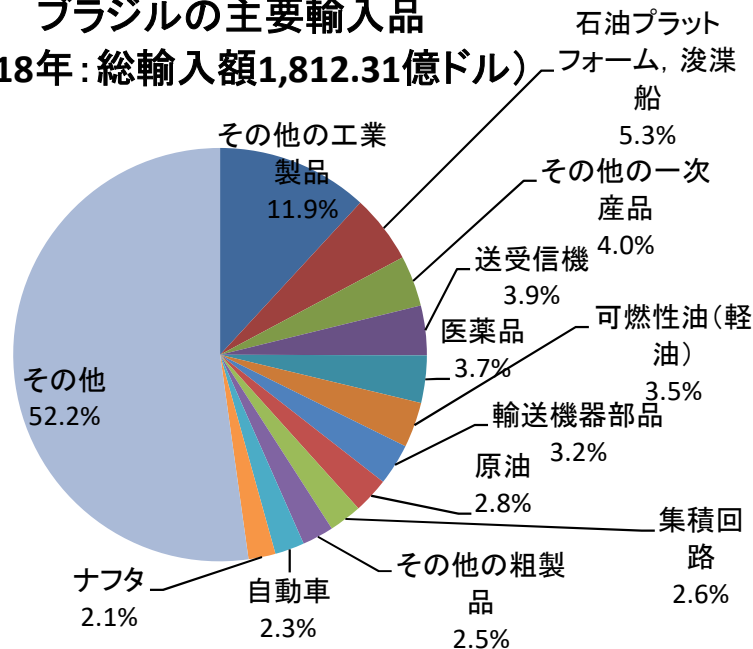


- 輸出・輸入とも中国, 米国, アルゼンチンが上位。日本の占める割合はこれらの国と比べると小さい。
- 輸出は大豆, 鉄鉱石, 原油等の一次産品, 輸入は工業製品が中心。

ブラジルの主要輸出品
(2018年: 総輸出額2,398.89億ドル)

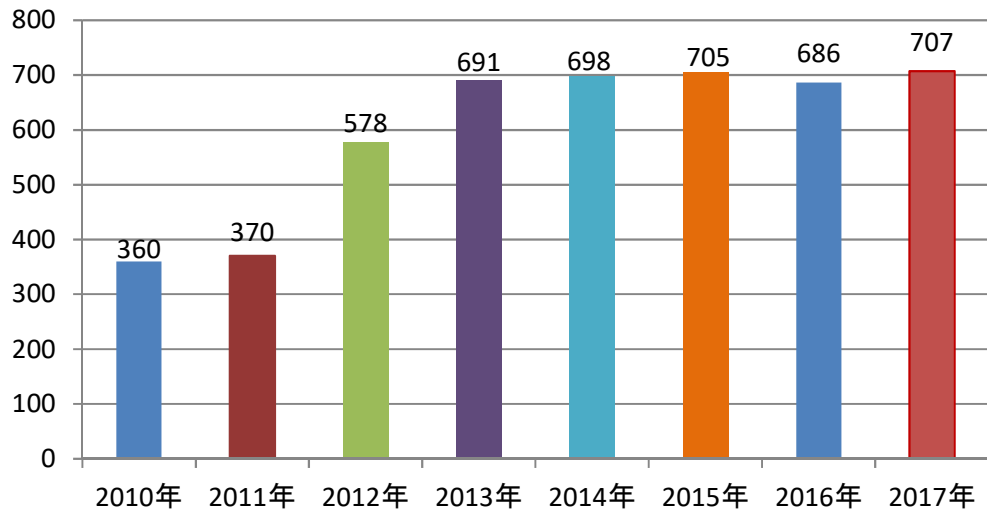


ブラジルの主要輸入品
(2018年: 総輸入額1,812.31億ドル)



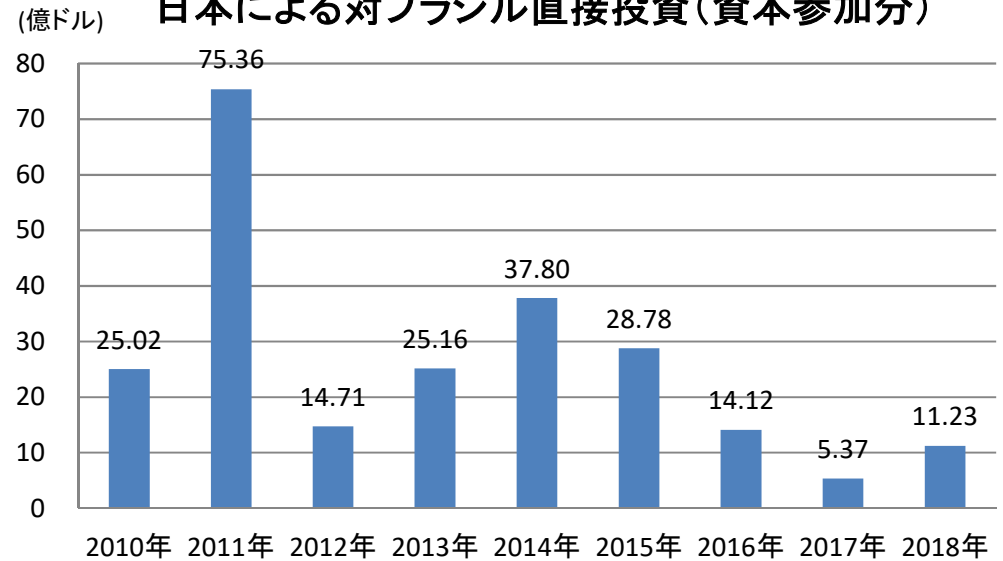
日本・ブラジル経済関係①

ブラジルへの日系企業進出数



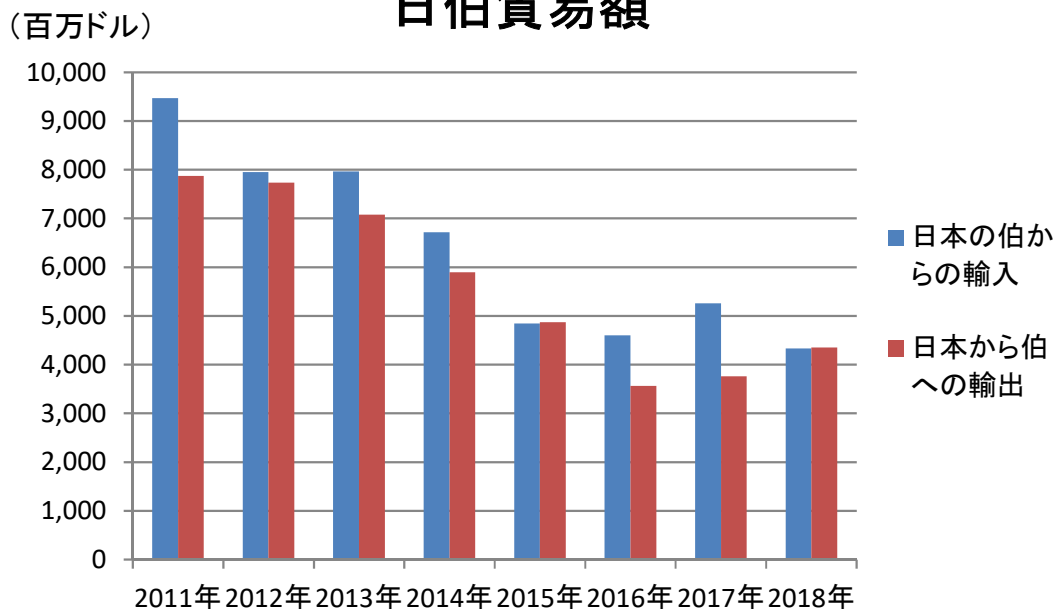
(出典)外務省海外在留邦人数調査統計

日本による対ブラジル直接投資(資本参加分)



(出典)伯中央銀行

日伯貿易額



(出典)伯経済省

【JBIC海外直接投資アンケート】

Q: ブラジルへの事業展開見通しは？

(2018年度海外直接投資アンケート結果, 116社回答)

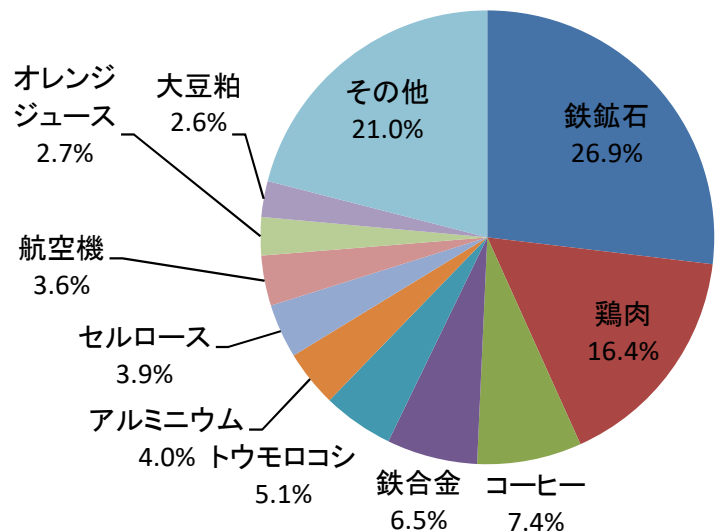
- 強化・拡大 : 45.7%
- 現状程度維持: 52.6%
- 縮小・撤退 : 1.7%

(参考: 2017年度海外直接投資アンケート結果, 112社回答)

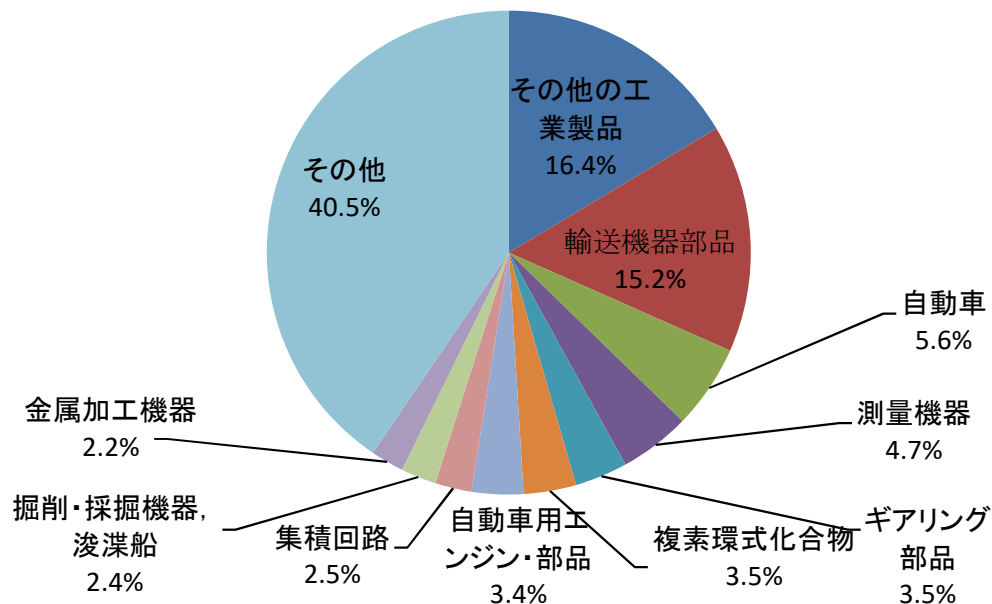
- 強化・拡大 : 42.9%
- 現状程度維持: 53.6%
- 縮小・撤退 : 3.6%

日本・ブラジル経済関係②

ブラジルの対日輸出
(2018年:総額43.34億ドル)



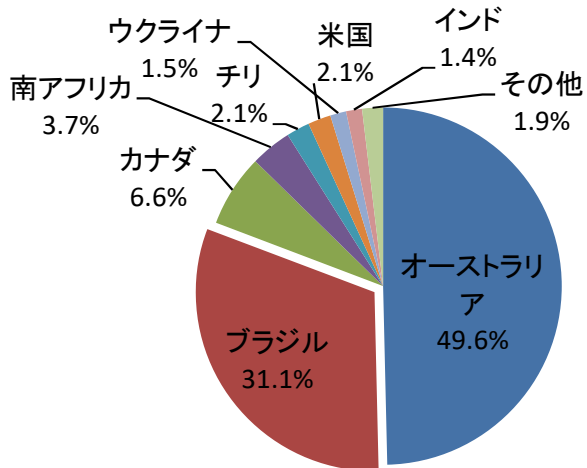
ブラジルの対日輸入
(2018年:総額43.56億ドル)



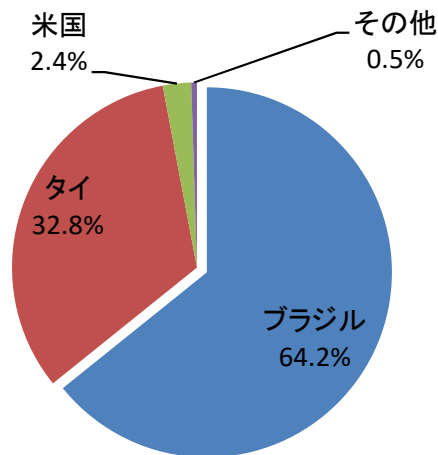
(出典) 伯経済省

日本は多くの鉱物・農牧産品をブラジルから輸入

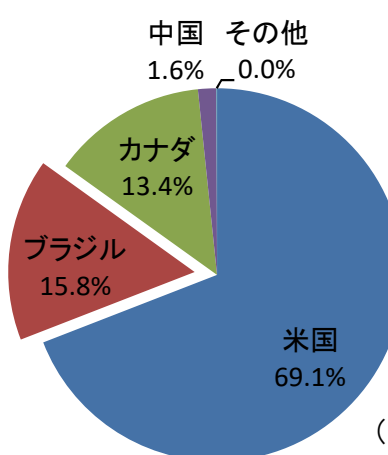
①鉄鉱石(2018年:総額1兆284億円)



②鶏肉(2018年:総額1313億円)



③大豆(2018年:総額1701億円)



【その他、ブラジルが日本の主要輸入元の産品】

- ・ニオブ:1位
- ・コーヒー:1位
- ・とうもろこし:2位
- ・パルプ:3位

(出典) 日本財務省

メルコスールのFTA/EPA

1. ブラジル新政権の貿易政策

- ・基本方針: 貿易自由化を志向。具体的な政策は引き続き要注視。
- ・二国間FTA交渉の可能性: 継続中のFTA交渉は引き続きメルコスールとして交渉。新たに開始するものはメルコスールとしてではなく二国間FTA交渉を追求する可能性あり。米国との何らかの協定交渉の可能性については要注視。
- ・対外共通関税の見直し: 資本財, IT製品等の関税削減について検討中の模様。

2. 締結状況(括弧内は発効年)

- ・中南米: チリ(1996), ボリビア(1997), メキシコ(2003, 2006), ペルー(2005), コロンビア/エクアドル/ベネズエラ(2005), キューバ(2007)。コロンビア(2017)とは, ALADIの枠組み内で経済補完協定。チリ, ペルー, ボリビアとは概ね自由貿易が実現。
- ・その他: インド(2009)及びSACU(南部アフリカ関税同盟)(2016)とは特惠貿易協定。イスラエル(2010), パレスチナ(2011), エジプト(2017年9月)とは自由貿易協定を締結。パレスチナとのFTAは2016年5月, エジプトとのFTAは2017年12月に伯議会が承認。

3. 交渉中のFTA

- ・EFTA(2017年6月～), カナダ(2018年3月～), シンガポール(2018年7月～), 韓国(2018年9月～): 2019～20年に妥結の可能性あり。

4. EUメルコスールFTA交渉の実質合意

- ・2000年に交渉開始。メルコスールにとり初の本格的なFTA交渉。断続的な中断を経た後, 2016年に交渉再開。
- ・2019年6月交渉が実質合意。今後, 双方で法的精査等を経た後, 署名へ。メルコスール側では各加盟国の議会での承認, EU側では欧州議会での可決及び欧州理事会での承認を経て, 今後2年程度で発効に至る見通し。
- ・協定の主な内容: 物品貿易の市場アクセスについては, 関税撤廃率(品目数ベース)でメルコスールは91%, EUは95%。メルコスールは自動車(現行税率35%)について, 7年の据置き期間の後, 15年目に関税を撤廃。EUは, 牛肉, 砂糖, エタノール等について輸入数量枠を設定。その他, サービス貿易, 政府調達, 知的財産, 競争, 国有企業等, 広範な分野を含む。

5. 日・メルコスールEPAに関する主な動向

- ・2018年4月, 日伯賢人会議(リオ)が日・メルコスールEPAの交渉開始を提言。
- ・2018年7月, 日伯経済合同委員会(東京)で経団連とCNI(伯産業連盟)が日・メルコスールEPAの早期締結を求める共同報告書を採択。
- ・2018年10月, 経団連及び日商が日・メルコスールEPA交渉の早期開始を求める提言を菅官房長官に提出。
- ・2019年7月, 在サンパウロ主要日系社会4団体が日・メルコスールEPA交渉の早期開始を求める嘆願書を山田大使に提出。

日本・ブラジル関係の進展

☆二国間関係は伝統的に良好



皇太子殿下(当時)のブラジリア御訪問
(2018年3月, 世界水フォーラム御臨席)

- 2014年 8月: 安倍総理訪伯
- 2016年8月: 安倍総理リオ五輪閉会式参加
- 2016年10月: テメル大統領訪日
- 2017年9月: 日ブラジル外相会談(於: NY)
- 2018年5月: 日ブラジル外相会談(於: 東京)
- 2019年1月: 日ブラジル首脳会談(於: ダボス)
- 2019年5月: 日ブラジル外相会談(於: パリ)
- 2019年6月: 日ブラジル首脳会談(於: 大阪)

3つの“Juntos”

- ① Progreder Juntos
(共に発展する)
- ② Liderar Juntos
(共に主導する)
- ③ Inspirar Juntos
(共に啓発し合う)

★移住110周年を記念した2018年は, 7月に眞子内親王殿下もブラジル御訪問

☆価値観を共有する両国は、国際社会でも協力



G20大阪サミット(2019年6月28日～29日)

戦略的グローバル・
パートナーシップ促進

着実な展開

日・ブラジル首脳会談(6月29日)の実施

- ・安倍総理から、ボルソナーロ大統領の諸改革への取組を評価し、また、治安、防災、環境保全、刑事司法、教育、ベネズエラ避難民支援等で、両国の協力が進展していることを歓迎。
- ・両首脳は、貿易・投資を一層促進させ、その他、幅広い分野で協力を推進していくことで一致。



写真: 内閣広報室

111年を迎えた日系社会

●111年を迎えたブラジルの日系社会

→2018年, 日本人ブラジル移住110周年

7月18~28日, 眞子内親王殿下が御訪問(5州14都市)

→2019年は, アマゾン移住90周年

(9月13日トメアス, 14日ベレン, 15日マナウスで記念式典)

→ブラジルには約200万人の日系社会, 日本には約20万人の在日ブラジル人社会

→2020年は, 在日ブラジル人コミュニティー30周年



眞子内親王殿下の御訪問

(2018年7月, 写真: 共同)

●日系社会との連携強化のための施策

1. 人的交流: 招へい・研修(JICA日系研修員だけでも約120名, 累計約3420名), 留学プログラム, 日系社会ボランティアの派遣(世界最多の約90名, 累計約1140名)
2. 日本語教育: 公教育への日本語教育導入(マナウス・バイリンガル校), 日系団体等による日本語教育を支援
3. 日本祭り(各地の日本祭りに各公館から日本ブースの設置等)
4. 日本食普及(和食ワークショップ等)
5. 日系団体及び個人への支援:
JICA移住者・日系人支援事業, 移住者保護謝金制度,
中南米日系農業者等との連携交流・ビジネス創出事業,
草の根・人間の安全保障無償資金協力等
6. 次世代日系人ネットワーキングセミナー及びレセプションの実施(若い日系人との接点を重視)



ブラジルにおける在外公館の配置

在ブラジル日本国大使館

在マナウス日本国総領事館

在ベレン領事事務所

在レシフェ日本国総領事館

在リオデジャネイロ日本国総領事館

在サンパウロ日本国総領事館

在クリチバ日本国総領事館

在ポルトアレグレ領事事務所

【名誉総領事】

○コスタ・オリヴェイラ・元バイア伯日文化協会会長(サルヴァドール, 73歳)

○ウィルソン・ブルーメル・ウジミナス社元社長(ペロオリゾンテ, 69歳)